

# 河北新報社

2011年(平成23年)12月3日(土)

会場風景



## 仙台圏の不動産 震災後動向探る

フォーラムに150人

不動産投資市場の動向を探る「2011不動産ファンドフォーラム」が2日、仙台市青葉区の宮城県不動産会館で開か

れ、東日本大震災後の仙台圏の状況などが紹介された。

不動産や建設、金融関係の専門家をつくるアセツトブレインズ仙台ネットワーク(仙台市)と仙台商工会議所が主催。不動産や行政の関係者ら約150人が参加した。

同ネットの佐々木正之事務局長は仙台圏の事業用不動産について「ことしの取引は10月までで計45件あり、昨年を上回る見込み。震災で建設、住宅関係に特需が発生し、土地取引が増加傾向にある」などと話した。

復興事業に関しては民間の力を生かすことが重要として「民設公営の賃貸住宅の供給を(自治体などに)提案することも検討している」と話した。

このほか野村総合研究所の志村近史上席研究員、宮城大事業構想学部の田辺信之教授の講演もあった。